

自己理解を深め、自らの健康を育むこと のできる生徒を育成するために

～校内外における連携と協働～

鹿児島県立鹿児島東高等学校
養護教諭 益山嘉枝

1 はじめに

本校は、生徒数 153 人、普通科 6 学級の学校である。「君が主役！チャンス・チャレンジ・チェンジ」を校是とし、それぞれの進路目標の達成を目指し、国際交流を通じたグローバル化や鹿児島高等特別支援学校等との連携によるインクルーシブ教育にも努めている。

2 主題設定の理由

生徒は、明るく活発で親しみやすい雰囲気を持ちながらも、生活習慣の乱れ・人間関係のトラブル・性の問題等、様々な健康課題を抱えている者が多い。運動部活動入部率は 26%と低く、部活動で体力向上を図っている者が他校と比べて少ない。また、中学時に支援を受けていた生徒や適応指導教室に通っていた生徒もおり、継続した支援を必要としている。自己理解を深め、自らの健康を育むことのできる生徒を育成するために、関係者と連携、協働し学校保健活動を実践することが重要であると考え実践しているところである。

3 学校保健活動の実際

(1) 校内における連携

ア 相談タイムの実施

学期に 1 回、教育相談期間が設定されており、始まる前に、教育相談係から全生徒に「相談タイムの希望調査」が配布される。生徒が担任や副担任以外の職員とも相談をしたい場合は、希望の職員名を調査票に記入することができる。担任や副担任には話しづらいが、他の先生になら話してみたいと思う者が全生徒の 1 割程度いる。相談タイムの結果、スクールカウンセラー（以下 SC）や精神科医に繋ぐこ

とが出来たケースもあり、貴重な機会となっている。相談を希望された職員は事前に担任等と情報交換をしたり、教育相談係から「学校楽しいと」個票でアドバイスを受けたりするなどして、相談タイムに臨んでいる。校内での支援の輪を広げるきっかけとなっている。

イ カウンセリング委員会

毎月 1 回、委員会を開き、情報交換やケース会議を行うとともに、別室登校や不登校の認定もこの会で審議する。構成メンバーは、教頭、教育相談係、学年主任、生徒指導主任、養護教諭等であるが、SC に参加をしてもらい、コンサルテーションを受けることもある。

ウ 健康観察の充実

クラス担任による健康観察は、検温表と健康観察簿をとおして毎日保健室と情報を共有している。検温表は新型コロナウイルス感染症対策の一つとして、昨年度から継続して実施している。感染者が増加し感染拡大の警戒基準ステージが引き上げられたときは、健康観察シートを毎朝 SHR で記入させ、体調に変化のある生徒は全員、保健室で改めて健康観察を行った。

(2) 特別支援学校との連携

ア 職員間の連携

鹿児島高等特別支援学校（以下高特支）の職員の方に年 3 回の巡回相談や、職員研修、個別の支援計画や指導計画についてのアドバイス等を行って頂き、支援に役立っている。今年度は、11 月の「かごしまの教育」県民週間に、両校相互で授業参観を行った。高特支の先生方による専門的視点を踏まえた助言は本校での支援において必要不可欠なものとなっている。

イ 生徒間の交流

高特支とは、体育祭や文化祭、心肺蘇生

法等の応急処置演習を合同で実施したり、1年生の交流会を行ったりするなど、生徒間の交流を図っている。また、鹿児島養護学校と、年2回ボランティア委員や希望者を中心に交流を深めている。

(3) 学校医、スクールカウンセラー等との連携
ア 学校医との連携

学校医による健康相談を年4回実施している。事前に調査を行い、担任や養護教諭による相談を経て、学校医に繋いでいる。新型コロナウイルス感染症対策においては、常に学校医と連携をとり、指示を頂きながら対応している。

イ 学校薬剤師との連携

感染症対策において、消毒、換気、手洗いの励行など、学校薬剤師から指導を受けている。特に、黙食については、丁寧な指導の必要性について教えて頂き、各学年職員で係分担し徹底した昼食時間の保健指導に努めた。



【昼食時間における黙食の様子】

また、3年生を対象に、学校薬剤師による薬物乱用防止教室を実施しており、幅広い指導、助言を頂いている。

ウ SCとの連携

○ スクールカウンセリング

SCは、年10回、相談員は年12回来校し、生徒や保護者との面接相談、職員へのコンサルテーション等行っている。

○ 心理教室

総合的な探求の時間を「ライフクリエイト」の時間として位置づけ、1年生を対象にSCが年2回心理教室を実施している。総合的な探求の時間の目標である「自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していく」ため

に、心理テストを用いて自分自身を振り返り、他者との関わり方についてロールプレイング等を用いて学びを深めている。

【心理教室実施内容】

1回目	「OKグラム」を利用した自分のコミュニケーションの取り方への気づき
2回目	「エゴグラム」を利用した自分の自我への気づきと成長に向けての方策

(4) 地域との連携

性に関する教育は、助産師と連携して実施している。本校の課題について話し合い、「いのちの大切さ」とともに保健講話を実施して頂いている。また、医療機関におけるカンファレンスへの参加や、児童養護施設等と生徒の生活状況について情報交換等、医療、福祉と連携を行うとともに、職員間の共通理解を図っている。

4 成果と課題

(1) 成果

ア 相談タイム等の実施により、全職員で連携して生徒の学習・生活状況の把握、支援に努めることができた。

イ 学校医や学校薬剤師、SC、助産師等の専門機関との連携により、生徒の健康課題に多面的に取り組むことができた。

ウ 特別支援学校職員との交流により、職員の学びが深まり、生徒への支援の幅を広げることができた。

(2) 課題

基本的な生活習慣に関する保健教育を、家庭と連携して取り組む必要がある。

5 おわりに

生徒が自己理解を深め、自らの健康を育むことができるよう、校内や特別支援学校、家庭、地域の医療機関、福祉機関等の専門機関と連携をより一層高めていきたい。また、単に情報を共有するだけの連携にとどまらず、共通の目的を共有し真の連携である協働を行い「チーム学校」の一員として学校保健活動に努めたい。